

巻 頭 言

新時代の幕開け
変化の激しいときこそ読書の勧め

同窓会会長 高橋 伸治
教育後援会会長 今村 泰治

4

学長退任のご挨拶

多謝、多謝、ゆずり葉の心で——学長退任の辞——

第8代学長 原科 幸彦

6

2024年度 学位記授与式

式 辞

第8代学長 原科 幸彦
学校法人千葉学園理事長 内田 茂男
同窓会会長 高橋 伸治

9

祝 辞

商経学部商学科 七島 明香
同窓会会長 高橋 伸治

13

祝 辞

商経学部商学科 高橋 伸治
政策情報学部 佐藤 大騎

16

卒業生代表挨拶

サード・創造学部 藤宮 千聖
人間社会学部 齋藤 雄大

18

2024年度卒業生からのメッセージ

サード・創造学部 吉越 彩絵
国際教養学部 齋藤 雄大

21

特 集 1

25 24 23 22 21 18 16 13 9

2025年度 入学式

式 辞

第9代学長 宮崎 緑
学校法人千葉学園理事長 内田 茂男

27

祝 辞

教育後援会会長 今村 泰治
商経学部経営学科 安彦 光

33

新入生代表挨拶〔前半の部〕

総合政策学部経済学科 川越 碧依

37

新入生代表挨拶〔後半の部〕

株式会社宮崎太陽銀行 代表取締役会長 林田 洋二
小松川信用金庫 会長 高橋 桂治

43

卒業生からのメッセージ（入学式祝辞より）

株式会社宮崎太陽銀行 代表取締役会長 林田 洋二
小松川信用金庫 会長 高橋 桂治

40

特 集 2

人生にとって大切な3つのこと
3つの指針

株式会社宮崎太陽銀行 代表取締役会長 林田 洋二
小松川信用金庫 会長 高橋 桂治

43

数をこなして確実にマーケティング・コミュニケーションの
チカラを獲得！

サード・創造学部 松本 大吾

46

ゼミ 紹介

数をこなして確実にマーケティング・コミュニケーションの
チカラを獲得！

サード・創造学部 松本 大吾

46

学生活動紹介

体育会 サッカー部

サード・創造学部 岡崎 優太郎

47

学生イベント

千葉県知事賞および千葉県私立大学短期大学協会会長表彰受賞
「2024年度なるほどなれっしコンテスト」開催

48

CUCレポート

学生開発商品の案内

51

学生開発商品の案内

51

学生ベンチャー食堂新規店舗 メニュー紹介

51

国際交流の現場から	国際センター長就任のご挨拶／今後の取り組みにむけて	国際センター長 影浦 亮平	52
入学センターニュース	2025年度入学者募集について	大学本部長	54
キャリア支援センターニュース	学生の主体性・自走力を促し、 マッチングスキーム(構造)の革新を図る	キャリア支援センター長	57
地域連携推進センターニュース	CUCキッズ大学サマースクール2025について／ほか	川 瀬 功	60
The University DINING レポート	ご卒業おめでとうございます！／ほか		64
ライブラリーニュース	図書館のライティング支援／「推し文庫フェア2024」を開催しました！／ほか		68
文化団体連合会・体育会所属各部の活動状況	文化団体連合会・各分科会からのお知らせ	社会連携推進課	72
特別企画 創立100周年にむけて	第6回「学食今昔物語」	伊 藤 雅 敏	70
千葉商科大学教育後援会報告	卒業生および新入生への記念品贈呈について／ほか		74
母校愛	学校法人宮崎日本大学学園副理事長・宮崎日本大学高等学校校長	間 野 寛 樹	80
同窓会活動	本部からの報告	広報・IT委員会	84
同窓会活動	支部からの報告	宮崎・郷谷 純一／愛媛・藤永 忠久	84
同窓会活動	同期会・その他からの報告	瑞穂会中小企業診断士研究会・青木 靖喜／CUC会計士クラブ・荒木 康仁	86
同窓会活動	同窓生のお宿・お店紹介「CUCのらくろ」	平10 経営	88
CUC経営者会議 ニュース	2025年度入学式で卒業生代表として祝辞／2025年度第11回総会の開催について／学生ベンチャー食堂に出席する学生に開業支援金を給付	卓球部OB会名誉顧問・体育会OB会副会長・同窓会理事 昭46 経営	89
「特別寄稿」	「遠藤隆吉先生のもと創部した卓球部」90年の歴史の1ページ	藤山 幸一	93
私と水彩画の出会い	感情は使えよう	昭49 商	96
50代上等！	理不尽なことは「週刊少年シンプ」から学んだ	商経学部専任講師 河田 美智子	98
▼第55期同窓会維持会費納入者(第2回)について	101 ▼同窓会役員および支部事務局(一覧) 102 ▼編集後記 104	基礎教育機構准教授 常見 陽平	100

新時代の幕開け

高橋 伸治

● 同窓会会長
(昭52商)



今年は、大阪で万国博覧会が開催される輝かしい年です。学位記授与式および入学式も無事に終わり、多くの卒業生が現実社会に巣立ち、新たに多くの新入生をキャンパスにお迎えすることができました。卒業生、新入生、ご家族の皆さまには、あらためて「誠におめでとうございます」。

私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織及び会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。創立55年の歴史を重ねた私たち同窓会は、この理念のもとに聴くことを前提にした密度の高いコミュニケーションを大切にして、これからも大学、教育後援会の皆さまと力を合わせて、社会に旅立つ若者たちの支援と新たに本学で学ばれる学生たちの発展に邁進してまいります。

宮崎緑新学長を迎え、千葉商科大学は学部学科再編に挑戦し、大きく生まれ変わろうとしています。

挑戦は間違いなく組織と人に成長をもたらします。たくさんの方の挑戦をして大きく成長する千葉商科大学であると確信しています。

令和時代はAIの進化と歩調を合わせて進むことが大切です。AIを不要とする産業などひとつもありません。時代に遅れぬよう、新たな挑戦を繰り返して成功よりも成長できる私たち同窓会をめざしてまいります。これまで解決できなかった問題を解決することがイノベーションです。世界はどんどん変化していきます。その新たな流れを的確につかみ、人を大切にする理念のもとに、これからの社会に対応できる私たち同窓会になれるように、大学および教育後援会の皆さま、今年の卒業生の皆さま、日本各地にいる卒業生の皆さまとコミュニケーションしながら、頑張つてまいりますので、よろしく願ひいたします。



千葉商科大学
同窓会
公式Webサイト
二次元コード

母校愛

間野 寛樹

学校法人宮崎日本大学学園副理事長
宮崎日本大学高等学校校長
千葉商科大学同窓会 宮崎県幹事長
昭和56年 商経学部商学科卒業

「大学の思い出」

私は、宮崎県の中部に位置する児湯郡川南町出身です。東側は太平洋日向灘ひゅうがなだの黒潮という暖かい潮の流れのおかげで温暖で、しかも年間の日照時間は全国有数の長さです。豊かな自然のなか、農畜産業が盛んな地域です。我が家も畜産業を営んでいました。地域の高校進学は、農業高校へ進む者がほとんどで、両親もその流れだと思っていました。中学3年の冬「高校卒業後は就職して兼業農家として頑張るから、商業科へ進学させてほしい」と懇願しました。高校

に入ると、「商業一般」の授業で、温和で熱心な美濃先生に出会うことができました。この美濃先生が商大出身だったのです。先生の薦めもあり、先生には親への説得をお願いし、晴れて大学進学が決まりました。先生は私に、「初又次郎先生に『美濃は頑張っている』と伝えてください」と頼まれ、田舎者の恐れを知らず、研究室を訪ね初又先生へお目にかかったものでした。

私は、大学を通して人生が一変しました。首都圏での生活と大学の講義を通して、視野を広く、視座





宮崎日本大学中学校・高等学校 校舎全景

を高くもつことができたと思います。大学1年は、市ヶ谷の宮崎県学生寮（定員100名・1年制度）に住んでいました。ここだけは、宮崎弁が通用し他大学の様子も窺い知り、商大がいかにも、親身な大学であるか確認することもできました。思い出の講義は、簿記の榎岡先生、経済地理の村松先生、英語の猪狩先生、国文学の柳井先生、ゼミナールは中務一郎先生でした。先生は、辛辣な言葉を発せられるときもありましたが、内面は心優しく、就職もお世話してくださり内定もいただきましたが、父が病気を患い、ついに私の奔放生活もここまでとなり卒業と同時に帰郷しました。

昭和56年の宮崎県教員採用試験は、ひのえうま年（昭和41年生・少子化）の影響で、商業科などの採用試験は実施されず、私は、私学に目を向け、延岡学園高校（3年契約）、宮崎日本大学高校の商業科教諭として赴任しました。

【学祖遠藤隆吉先生】

私が大学2年の頃、創立50周年記念誌をいただき耽読しました。学祖遠藤隆吉先生の建学の精神「実

業家となるべき者に商業道德を吹き込み殊に武士的精神を注入するは最も急務なり」。

高い倫理観をもつべきとの印象を受けました。また、内田茂男理事長が記述された、「福沢諭吉の実学と遠藤隆吉」（きずな31号）には、大変深い感銘を受けました。「実学の効用…学問とはただ難しき字を知り、解しがたき古文を読み…実のなき文学というにあらず。もっぱら勤むべきは人間普通日常に近き実学なり、学問の要は活用にあるのみ、活用なき学問は無学に等し」。

活用なき学問は無学には衝撃を受けました。母校への誇りを一段と強くした記事でした。

【宮崎県支部設立総会】

平成25年の秋、私の元保護者から電話がありました。「私は、和洋女子大学同窓会の県支部長をしております。県総会に同窓会理事長が来宮されます。先生をご紹介したいのですが」と。名刺交換の後に、「和洋女子大のことはよく知っております。私は、千葉商大出身です」と話すと、2人の貴婦人が眼を大きく開けて、「えー」一瞬のうちに近所付き合いの

ようになりました。この和洋女子大の高梨同窓会理事長が、同大学の「むらたけ会」で、原田嘉中理事長に私のことを話題にされ、もったいなくも原田理事長よりお電話をいただきました。そのなかで「九州には、沖縄県支部しかありません。宮崎県にも設立してください」私は、即座に「わかりました」と返答しました。

平成28年6月に宮崎県の主要銀行である宮崎太陽銀行の代表取締役頭取に林田洋二氏（昭48商）が就任されるや、原田理事長との約束を果たさなくてはと焦燥感に駆られました。私は、日南学園高校教頭を勤められた人望の厚い、郷谷純一先生（昭45商）に支部長を要請し、林田氏と美濃氏を顧問としました。設立総会の準備、会則作成などは、樺田均副会長にご教示賜り、平成29年2月19日同窓生22名出席のもと、ついに支部設立総会を挙行することができました。

総会には、原田理事長、勝田同窓会会長、太田学部長のご臨席を賜り、新たな一步を踏み出すことができました。

※役職名は当時のものです。

【母校愛】

同窓会発足を通して、多くの出会いがあり、多くの学びがあります。特に印象的なことは、郷谷支部長の出身校である県立日南高校からの商大生の多さです。支部長曰く、「日南高校には商大出身の佐藤先生がおられて、母校への進学を薦められていた。そして、市川市須和田、菅野近くの下宿屋「中村荘」に先輩を訪ねて、後輩が続く伝統ができていた。私のときも先輩後輩が4人いた」と。また、同様なことが、小岩駅近くの下宿屋にもあったということです。机、こたつ等も後輩へ引き継ぐ、商大を通しての郷土愛、人間愛が生まれ育っていたのです。

この佐藤先生、先の美濃先生、私も教え子が2年生に在学。母校へ生徒を送ること、大学を支援することが母校愛に他ならないと思うところです。

【母校魂を胸に】

私が勤務する学校は、昭和38年高校数不足の深刻な状況のなか、県知事と市長が日本大学に向いて誘致した学校です。設置学科は普通科と商業科です。現在は、中学・高校5学科設置。全校生徒1580

名。教職員160名、県内最大の学校です。私は、長年教鞭をとりながら、企画広報に携わり生徒募集は学校運営にある、との思いで時代に対応した改革を続けております。

商大の教育理念である治道家として、自分のためだけではなく、より多くの人の力となる人材育成に、母校魂を胸に、母校と共に栄えある学校発展に精進してまいりたいと決意を新たにしています。